

第2回丹波市自治協議会のあり方懇話会（摘録）

開催日時	平成30年8月7日（火）午後2時00分開会～午後4時10分閉会
開催場所	氷上保健センター ホール
出席者	【座長】 久隆浩委員 【職務代理】 足立徳行委員 【委員】 大野亮祐委員、西垣伸彌委員、清水明委員、藤本修作委員、田中延重委員、永井正伸委員、畑田久祐委員、田邊和彦委員、荒木伸雄委員、増南文子委員、田中義人委員、足立純子委員 【丹波市】 副市長 【事務局】 まちづくり部長、市民活動課、各支所
欠席者	【委員】 澤村安由里委員、田村庄一委員、吉見温美委員、吉積明美委員
傍聴者	2名
次 第	1 開 会 2 委員の交代について 【資料1】 3 座長あいさつ 4 会議の公開・非公開の決定について 5 協 議 （1）委員意見交換 ○自治協議会の「組織運営」・「活動内容」について ・好事例について ・課題について ○自治協議会と活動団体との協働の状況について 6 その他 7 第3回懇話会開催日程 平成30年9月21日（金）午後2時00分～ 於：ライフピアいちじま 研修室 8 閉 会
資 料	◆配布資料 ①【資料1】丹波市自治協議会のあり方懇話会委員名簿 ②【資料2】自治協議会代表者による意見交換会（平成30年5月開催）、地域コミュニティ活動推進員による意見交換会（平成30年6月開催）での意見集約 ③【資料3】丹波市議会による平成30年度市民との意見交換会意見等一覧（抜粋） ④【資料4】25地域カード ◆追加資料 ⑤【資料5】自治協議会アンケート ・自治協議会運営等検証シート項目別割合 ・自治協議会の実情について（組織運営、活動内容の項目について（抜粋））

会議摘録	
発言者	発言の要旨
事務局	1 開 会 2 委員の交代について ○委員交代について説明
座長	3 座長あいさつ 前は1回目ということで、この懇話会の目的等を共有させて頂きました。本日から本格的な議論を進めたい。 まずは、副市長からあいさつ頂ければと思う。
副市長	丹波市としてこの懇話会は非常に重要な懇話会と考えている。この懇話会と並行して、丹波市未来都市創造審議会というものがある。これは20年後の丹波市の都市将来像を考える審議会である。その審議会の重要なテーマの1つが地域の自治のあり方である。それにこの懇話会の内容を反映していきたい。 その未来都市創造審議会では、行政機能や商業機能、経済機能を効率性の観点から中心部に集める。一方で市民には住み慣れたところに住み続けてもらう。この大きな2つの方針がある。 単に住み慣れたところに住み続けるのではなく、その地域を選ぶことの意義を考えて頂きたい。利便性の高い中心部ではなく、あえて自然豊かなところに住むことの意義を考えて頂き、20年後どのような暮らしをするか考えて頂きたい。そこには地域の自治をどうするかが、非常に重要な要素となるだろう。自分達で地域のあり方を決め、自分達で決めた地域を作っていく。そういう自治のあり方がやはり重要だろう。 高齢化により人口が減るなかで、地域の自治が20年後も上手く行くことが重要であり、この懇話会の重要なテーマだろう。是非、色々な意見を出して頂いて、丹波市の将来に向けて、ご議論頂ければありがたい。
座長	4 会議の公開・非公開の決定について ○運営要綱第2条に沿って諮り公開とする。
事務局	5 協 議 (1) 委員意見交換 ○資料の説明
座長	自治協議会の様々なご意見や好事例、日頃抱えている課題、あるべき姿についての考えなどを賜りたいと思う。 副市長から暮らし方を考えて頂きたいという話があった。それに関して私からも導きを含めて話をさせて頂く。農業経営の話である。 大阪府岸和田市で行った勉強会に静岡県浜松市にある京丸園(株)の鈴木社長が来て頂き、話を伺う機会があった。鈴木社長は現在40歳位。京丸園

職務代理	(株)というのは 400 年続く農家である。鈴木社長は 20 歳でその農家を継いだ。それから 10 年間必死に働くが一向に経営がうまくいかず、30 代になって農業の経営塾に行かれた。そこで講師の方から 3 つの質問をされた。 1 つ目は、あなたはなぜ農業をやっているのか？ 2 つ目は、10 年後の農業の姿をどう考えているか？ 3 つ目は、10 年後の農業を実現する為に誰と協力するか？ 鈴木社長は、3 つの質問に全く答えることができなかった。1 つ目の質問に対しては、400 年続く農家に生まれて継いで当たり前という感覚だった。2 つ目の質問で 10 年後を考えたことが無かった。10 年後を考えたことが無い為、3 つ目の質問も考えたことが無かった。講師は、この 3 つのことを考えることが経営であると言った。そこで目が覚めて、この 3 つを考えて頑張ったところ、それなりに頑張れるようになったということである。 これを地域に置き換えると、副市長から提案頂いたことになる。 資料 5 のアンケートに将来について考えているか？という項目がある。アンケート結果は「できていない」の部分が非常に大きい。地域や自治協議会の 10 年後 20 年後のあり方というのを考えて頂いて、それに向けて一步一步活動を繰り返していくということも非常に大事な地域づくりであると改めて思った。その様な観点も踏まえて、これから意見交換を行いたい。 神楽の事例について紹介する。神楽では、地域づくりを効率的に進める為、一般財団法人神楽自治振興会を立ち上げている。これは、昔の神楽村の財産管理をしていた財団法人神楽会を基軸に、自治会長会と NPO 法人神楽の郷、3 つの組織を 1 つにしたものである。自治会長会は住民の意見を吸い上げられ周知が浸透しやすい組織であり、NPO 法人神楽の郷は交付金事業に基づく地域づくりを行う団体であった。 3 つの組織が 1 つになり、1 つの財源の確保が出来たものの、収入源がない為、県や市の補助金を活用できる事業の進め方を検討していた。その時に県民局から田舎暮らし促進の事業について提案を頂いた。田舎暮らしを希望する皆様方に 1 ヶ月神楽に滞在して頂き、丹波市の魅力を知ってもらい、次のステップに進んで頂くという事業である。この事業を県と市から 300 万ずつ補助金を貰って始めた。この事業を基軸にして、空き家の利用促進を図る為に年 2 回都市との交流イベントを行い、空き家情報を把握し利用者が見学できるようにした。交流事業を通じて、定住の促進に努めていった。これを手掛けたのが平成 24 年 12 月からである。 今は、新たに戦略的定住促進事業の県補助金を活用している。このような補助金を活用するには、自主財源が必要になってくる。自主財源が確保しやすい組織の仕組みになっているのが、神楽の特徴である。 自治会長が理事にいる為、将来の神楽の話をするとき、住民の意見の収集や浸透が図りやすい仕組みになっているのも神楽の特徴である。 少し組織について課題があり、理事の半分が自治会長の為、任期が短く 2 年毎に理事の半分が変わってしまう現状がある。また、人によっては積極的な取り組みがないのも挙げられる。 定住促進を図るに当たり、地域に元気になってもらう為、コミュニティ
------	--

	推進員に、神楽会館を集落の駅として活用しやすい施設として、いろいろな仕掛けをやってもらっている。 これらの取り組みを行う為に、現在は私と推進員が1週間フルタイムで活動しないと事業が推進できない。しかし、限られた地域財源を人件費に充て過ぎると地域内でトラブルにつながることも懸念される。それが大きな問題である。市には、活動推進員や自治協議会の会長にある程度の費用弁償が出せる仕組みを考えて頂きたい。
座長	三田市でも同様に、まちづくり協議会の立ち上げの会議において、当時の自治会長から人件費の補填が非常に大事であると意見があり、一定額交付金のなかで人件費を工面することを認めて貰っている。大変な仕事であっても、一定の人件費があれば、仕事としてできるということである。
委員	私は、NPO 法人神楽の郷の時から地域づくりに携わってきており、この4月から一般財団法人神楽自治振興会で業務執行理事をしている。地域づくりには関わりがあったものの、自治会長会には関わりが無く、自治会長会については自治振興会に入ってからいろいろと学んだ。 私がなぜ神楽の地域づくりに関わっているのかというと、結婚を機に神楽で家庭を持ち、子育てを通じて地域と関わりを持つなかで、私自身が神楽に育てて貰ったと感じている為である。 先日、I ターンで神楽に来ている方が住まいの展示会を行われた。その方は、神楽に来てから凄く生き生きされており、都会に住む知人に神楽を見て欲しいという思いで展示会を開くと言っていた。 地域で世話になっているとか、育てて貰ったという思いが、地域づくりには大切であり、そういう思いを地域の人に持って欲しいという思いで一生懸命活動をしている。 それが、この神楽自治振興会の 10 年後誰と何をやっていくのかというきっかけになればと思う。
座長	自治会長会のことがわからなかった。という話がありました。 大阪府泉大津市でまちづくり協議会を作るために、ワークショップを実施した。そのなかでも全く同じ意見が出てきた。地域に居ても、それぞれの団体が何をしているのかわからないと申されていた。 資料5の5ページの34番の項目を見ると「広報誌・インターネットなど情報発信の手段に工夫をしていますか。」という質問には「やっている」という回答が多い。しかし、周囲には情報が伝わっていない現状がある。情報を発信することと、情報を受け取ることに差があるのだと思う。 情報発信・情報共有が上手く出来ているところがあればご紹介頂きたい。
職務代理	神楽は、1ヵ月分の行事やイベントを自治振興会が防災無線で広報している。今までは、単位自治会で自治会毎に放送をしていたが、自治振興会が放送することで、神楽地域全域に情報発信が出来るようになった。また、地域コミュニティ活動推進員がラジオ放送経験者であり、放送内容も分かり易いと評判が良い。

副市長	神楽は、積極的な都市交流事業を行っていると言っている。そこで聞きたいのが、都市交流事業への自治振興会や自治会、老人クラブなどの団体の関わりを教えてください。
職務代理	古民家のある菅原集落にて「古民家活用の会」を立ち上げて貰い、管理運営を委託している。30 名程で構成されている。この 30 名とは、菅原集落 25 戸の高齢者や子どもを除く全ての住民である。古民家活用の会への参加を拒否する住民はいなかった。活動には、コンニャク作り体験などもあり、高齢者の方にも活躍をしてもらっている。 集落に管理委託をした背景には、自治振興会の役員の内半数は自治会長であり、2 年で交代する為、継続した事業を行うことが難しいという実情がある。 古民家活用の会には日頃の体験者との関わりや行事イベントの企画運営をしてもらっており、自治振興会は情報発信や問い合わせ対応など、補助金に関することをやっている。
座長	集落単位で事業を行えば、地域の全員が地域活動に関わっていけるという可能性も出てきたということだろう。
委員	全ての自治協議会には、自治会長が関わっていると思う。私も単位自治会の会長の時には、組織の理事として関わりがあった。しかし、自治協議会のなかで、自治会長は沢山の役職のなかの 1 つであり、積極的な関わりが無かった。地域によって自治協議会と自治会の関係は異なると思うが、今後の自治協議会のあり方を考える時に、自治会との関わりや自治会のあり方も各地で話し合っこの場に持ち寄るといったことが必要であると思う。 県連合自治会の役員をさせて頂いて思ったことがある。丹波市自治会長会は、自治会長会という名前でありながら、自治振興会も参加している。他の地域では単位自治会長のみが集まることが多い。逆に加古川市だけは、加古川市民団体連絡協議会という自治協議会の集まりが県の会議に出られる。丹波市は自治会長と自治振興会長が丹波市自治会長会の理事をしておりややこしい。篠山市は単位自治会の会長でなければ、篠山市自治会長会の理事にはなれない。その為、任期が長く 1 年で代わることは少ない。丹波市の場合は長くても 2 年。柏原では 1 年で代わるが多く、事業などの継続性がないという問題がある。そこを踏まえた活動をして欲しい。
座長	自治会と自治協議会がどのように連携をするのかというのは、様々だと思う。その問題は自治会だけではないと思う。地域には 30 以上の団体があると思うので、その団体と自治協議会が上手く連携できるような仕組み作りも考えていければと思う。 事務局に地域カードを作ってもらい活動を整理した。次回以降に事務局には自治協議会と各団体の関わりを示す組織図を作ってもらいたい。地域カードと組織図を並べるといろいろと見えてくると思う。

委員	春日地域の組織運営について紹介する。 大路・国領・黒井の組織運営は、自治協議会と自治会長会の関係は良好であり相互の協力関係にある。春日部や船城においては自治会長と自治協議会の間に隔たりがあったものの、昨年から体制が整いつつある。 大路は5ヶ年計画を立てており、昨年は2年目の事業として冒険家三浦豪太さんの講演会を行った。350名程の参加者が集まり、郷土の関心や地域交流の課題などが挙げられた。また、中山間地域として都市との交流事業も行われている。 春日部は、大路と同様に兵庫県アンテナショップの元町マルシェへ野菜の出荷など積極的な取り組みをしている。今年から春日部ランチと呼ぶコミュニティのランチを毎週火曜日と木曜日に実施中である。このランチを通じて、自治協議会と自治会の関わりが増えてきた。 船城地区は、歴史探訪として、歴史の遺産や昔の祠を回るルートを作成している。 国領は、大きな集落が4つで構成する自治協議会ということで、自治会長会と自治協議会の会長を1人がやっている。それぞれの自治会で事業運営されており、自治協議会は、健民運動会とひまわり祭りの2つだけしか行わない。それだけ大きな集落ばかりである。 黒井は、NHKの大河ドラマで明智光秀の放映が決定している。黒井城が続日本100名城に選ばれ、沢山の観光客が来ている。今後は春日局（かすがのつぼね）の興禅寺も含めた、観光ルートを考えようかと自治会長と話をしている。黒井城まつりも実施しており、今年で30年になる。今年は馬に乗って武将の武者行列を行いたいと計画している。また、若者に山を走るレースを作ってもらい、今年で3年目になる。このトレイルランニングレースは全国レベルの大々的なレースとなってきた。そのような関係で、黒井は自治協議会と自治会長が同じレベルで活動している。
座長	自治協議会が立ち上がってから新しい行事ができている。それに対して、新しい担い手が現れて新しい行事を支えている。そのような取り組みも良いと思う。先程の神楽の古民家活用も新しい行事が始まって、新しい展開が生まれたということだと思う。
委員	柏原は丹波市の玄関口として、観光に特化した事業を展開している。しかし、柏原は商店街数も減ってきており賑わいが無い。 柏原には、自治協議会、観光まちづくりの会、株式会社まちづくり柏原、中心市街地活性化協議会、商工会柏原支部、商工連合会がある。これらを巻き込んで盛り上げていく様に仕掛けをしている。従来では2月の厄神厄除大祭や夏祭りは自治協議会が単独でやっていた。それらと、10月の織田まつりを合わせた3つの事業を共同でやるように提案を行い、現在は実行委員会制でやっている。しかし、役員の負担となっているのが実情で、役員以外を出す様に心掛けていっているところである。 昨年から雛めぐりというイベントを行った。これは女性の祭りであり、女性を前面に出すという仕掛けをした。女性は元気があり、男性にはない

	ところが発揮できたと思う。この祭りでは、吊るし雛というものを各自治会単位でサークルを作り制作した。1人パッチワークをされている方が指導をして週に何人かが集まって活動を行われると聞き、非常に楽しんでやってもらっているようで、やはり女性の力を持って行った方がよいとつくづく思った。 柏原の自治協議会は崇広校区の自治会長が17名と各種団体から24～25名おり、全部で43名程の理事がいる。部会制を取っており、教育部会、広報部会、環境部会、福祉部会、防犯部会、健康部会の6部会に分かれている。総会で全体のテーマを決めて、そのテーマにそって各部会は1年間活動をしてもらっている。 柏原の場合は、柏原自治協議会と新井自治協議会、自治会長会の3つの会で、市から連絡が入ってくるところを上手く1本化できないかと考えている。一昨年には、当時の柏原支所長に音頭を取って頂き、3回程協議をした経緯もある。市にも窓口の一本化について考えて頂きたい。また、他の地域の方には、自治会長会と自治協議会の関わり方、あり方について教えて頂ければと思う。
座長	行政の各担当部署が地域の方々と協働していくときの窓口が、それぞれある。まさに、行政の縦割りがそのまま地域の団体の縦割りにつながっているということである。情報の窓口の一本化により、地域の情報の共有が出来るということであり、それが出来ないのかという提案であったかと思う。 大阪府枚方市の菅原東コミュニティ協議会では、団体を束ねて行き、定例会を月1回に統一した。だから、定例会に参加すれば行政の情報も全部わかるし、各団体の情報もここに来ればわかる。この様に会合自体を集約していった。例えば、地域の福祉委員が自治会にお願いをする場合は、各集落を別々に回っていた。しかし、定例会に全ての団体が集まるので、その場で意見を出すと全ての団体に情報が流れるということである。そうすることで会合が減り、情報共有も楽になったと聞いている。 市役所の方もその定例会に出るとパートナーにも情報が伝わる。このようにやり方を工夫するのも1つの手だと思う。情報共有とは言葉で言うほど簡単ではないので、会合を1つに集約するということは1つの手だと思う。
委員	市島は自治振興会がトップである。自治協議会とは何かお伺いしたい。2つあってややこしい。 鴨庄地区自治振興会は自治振興会長が全てのトップである。全ての会議に出席する。しかし、行政の縦割りのなかでわからないことが沢山ある。保健衛生委員とか部落のなかでもたくさんの役がある。役員とか団体があり過ぎる。行政から直接団体に連絡がいくから、自治振興会にわからないことが多い。 自治振興会の組織はトップが3人いる。これは全体から選ぶ。各部落の自治会長は、総務委員という役割がある。市島全体となると自治会長は理事となる。理事は各部落の全ての役員を掌握している。自治会長は部落の

座長	子ども会や婦人会などの団体の話を月1回の総務委員会や理事会のなかでしてくれる。このような筋道が立っている。しかし、保健衛生委員などは地域の外で寄合がある為、自治振興会に情報が入ってこない。 婦人会や子供会などの団体のイベントは、実行委員会制で動き、自己満足とならない様にいろいろな意見を聞けるような形にしている。 どういう形で役割分担や連携が出来るかということが、今回の懇話会の重要なテーマである。 情報伝達の方法について三田市の事例を紹介する。三田市は婦人会への情報伝達は、連合婦人会から地域の婦人会へ情報が流れる手順であった。それが、自治協議会からの連絡に変われば、連合婦人会は何をすれば良いのかという話があった。婦人会だけでなく、各団体は市の連合会がある。その連合会の役割と、地域の団体の関係もある。自治協議会だけの問題ではないので、時間をかけて考えていく必要があると改めて思う。
委員	先程柏原の話があったので、新井の立場でも話をする。 柏原は2つの自治協議会運営となった。しかし、自治協議会設立以前には柏原は、団体の一本化が進められていた。その結果、新井には数える程しか団体がない。また、団体の活動も以前の様な全体を見渡した活動ではなく、直接的な活動になってきている。 現在の新井自治協議会は、12名の理事を各地域から選んでいる。自治会は10あったが、自治会を休会しているところ、自治会員が10名前後の自治会もあり、実質は6自治会でもっている。 新井自治協議会は5つの部会がある。理事を各部会に分けると2名ずつとなる。自治協議会カードに書いている事業をすべてやるには、フル活動になってしまう。コミュニティ活動推進員は、すべての行事の準備から片付けまで行っている。 自治会の加入率は、丹波市全体で72%、柏原で64%、新井で61%であり新井の自治会加入率は低いことがわかる。それは、丹波市の商業の中心部の近くであるため、生活が都市化している為だと思う。生活が都市化しておりながら、従来の集落の組織もあり、全ての課題をもっているのが新井の自治協議会だと思っている。 新井自治協議会も他の地域同様に行事・イベントを行いたい、そこまですぐ手が出ない状況である。現在は基本的なことをやるしかない、ここ2〜3年で気付きました。社会福祉協議会と連携して、私達の生活をどうするのかの議論もかなり深まってきている。この辺りの分野毎にスポットを当てていき、今までとの流れが変わってきていることを整理しなければならないというのが、新井自治協議会のあり方である。柏原との関係につきましては、新井の住民の方も柏原に属されている。このような状況で事業をしている。
座長	地域によってかなり状況が違うということがわかったかと思う。 三田市広野の事例である。広野には旧村とニュータウンがある。自治会長は旧村の出身であり、今までの伝統行事を守らないといけないという思

委員	いがある。ニュータウン側の方は、その気持ちが無くやりたい部分を楽しくやっている。自治会長は本当にそれでいいのかとおっしゃっていた。村の伝統を守るための相当多くの行事、活動がある。更に地域づくりの行事もある。その両輪は相当苦労頂いていると改めて思った。 そのなかで自治協議会は、地域が伝統的に担ってきていることと地域づくりを整理しておき、何をどういう形で担って行けば良いか考えていく必要があると思う。 山南には4地域あり、それぞれに自治振興会・自治協議会がある。4地域の内、3地域は自治会長会の組織が残っているが、1地域は自治振興会の部会として自治会長会をまとめている。自治会長会と自治振興会の力関係は、自治会長会の方が強いということがある。 山南の問題として、中学校の統合問題がある。市から統合の準備委員会に委員を出して欲しいと要望があるが、市に説明等を要求しているにも関わらず一切ないとのことで、ある地域からは委員が出ておらず、統合委員会は持っていない。 私は、4年前に単位自治会長をしており、その際に山南町の代表として丹波市自治会長会に出席したことがある。しかし、単位自治会長なので、その会で話があったことを持ち帰るところがなかった。その経験があったので、現在は自治会長会の理事には、1地域を除いて各自治振興会長が出ている。 私の自治振興会は部会制であり、各部会で行事やイベントを行っている。市民体育大会など部会を越えて行う活動もある。これは、体育振興会と協働してやっている。市民からは自治振興会が行っていると認識されているが、実際には実行委員会制で行っている。逆に、部会や実行委員会を置かず事務局と会長のみで行う活動もある。それは、夏休み前に行われる一斉ラジオ体操や平成たんば塾である。 一番大きなイベントは、石龕寺(せきがんじ)もみじまつりであり、今年で29回目になる。元は商工会が行っていたイベントを自治振興会が引き継いだものとなる。お金もかかり大変な思いをする。こちらの実行委員会が行っている。 いろいろな活動が、様々な形で動いており、混乱をきたしている。 年4回小川の広報を出す。自治振興会で行ったことは必ず広報に載せ、自治会の夏祭りなどのイベント情報や活動も広報に載せる様にしている。 昨年、山南の4地域でポスターを作った。今度は、防災講演会を9月8日に行う予定で、南三陸町の元副町長に来てもらう。これは今から実行委員会を作り、地域を巻き込む最初のイベントになる。 少しずつやり易い方法でやり、出来るだけ参加してもらう。また、常に参加者が何処から何人参加したのかデータを蓄積する。その積み重ねが自治振興会の活動である。
座長	2点、このような観点が必要だと思ったのでお伝えする。 1点目が様々な行事がいろんな形で動いているという話があった。大阪市東淀川区の集まりで、このような話があった。それは、若手なので、い

	ろいろな行事を手伝うが、どの行事を誰が主催しているのかわからない。行事を手伝うだけであると話されていた。主催者側がこのような感じであれば、担い手側はもっとその辺りが見えないまま、行事だけ回しているかと思う。 2点目が、学校統合委員会の問題について。市役所側にも考えて頂かないといけないのが、地域の代表に来ていただいて委員会を開くと、そこで物事が決まると地域の総意であるとすり替えられていないかと思う。意見を聞く場なのか、そこで物事を決める場なのか、そこがあいまいなまま委員会が動いてしまうということがあったのではないかなと思う。この場所は、沢山の方の意見を聞いて別の場所で意見を意思決定するのか、あるいは、ここで意思決定をしてほしいと言うのかによって、立ち上げ方や委員の集め方も違ってくと思う。そのなかで、自治協議会にどのような役割を担って欲しいのか、地域の意思決定を諮る必要もあるので、そこを上手く連携できるのかということを、市役所側も整理していく必要があると思う。
委員	4月に自治振興会の会長になり、5月初めから愛宕祭りの実行委員長になって、現在進行形で活動している。その活動を夢中にしている為、まだまだわからないことが多々あるが、そのなかでも私が組織運営を行う際に気を付けていることがある。それは「私の若いときはこうだった」この言葉が禁句であると教えて頂き、その観点で40代、50代の方を上手く使えないかと考えている。組織の運営は、65歳以上の方で現状を維持できたらそれでいいと思う。皆に地域の発展や維持について、どのようなのが良いと考えておられるかお聞きしたい。 40代、50代の方は、仕事もあり活動に参加するのが難しい。現在、関西大学の学生に地域活動に参加してもらっている。今年は32名の学生が集まり、若い力、考え方など我々では想像できないことに力を発揮してもらっている。我々はそれを上手くまわしていくことが出来るかが、今後の大きな課題になると思う。 今後の自治振興会も、順番に65歳以上の方が役員をして自治会長を経験し、自治振興会長になると思う。そのなかで、地域の原動力となる関大生や地元の若い世代と一緒に活動できる方法を研究していきたい。また、良い方法があればアドバイスを頂きたい。
座長	20代から40代前半までの人は、社会活動や地域活動を行いたいと考えている人が多い。その方々は、自分の仕事の都合などに合わせて、自分のペースでの活動ができないと参加しにくいと言われる。今の地域活動ではそれができない。それがハードルであると言われる。 先日、大阪で育休明けの30代現役の先生と会いました。その方は育休中に社会活動をしていた。現在、学校に復帰されたが、現役でありながらこれから面白いことを行うと申されていた。このように、丹波市においても、いろいろな知恵やノウハウ、行動力を持った人材はいると思う。働きながら、その人のペースに合わせた活動ができる環境が出来ると、若い方々が活躍できる場面が出てくると思う。

委員	私は、市民活動を最近させて頂いている。丹波市内にも多様な団体や活動がある。そこに、50 人、60 人集めるというのは、そんなに難しいことではないと思う。例えば SNS を使うなどの情報発信の手段があると思う。 資料 5 では、4 番の「重い荷物もみんなで持てば楽です。役割分担と適材適所でみんなが活躍できるような雰囲気と仕組みはできていますか」あまりできていない 70%。5 番「一人ひとりが無理なくやりがいをもって運営に携わっていますか」あまりできていない 65%となっている。先程から自治協議会の会長の話を聞いていると、知恵を絞った面白い効果的なイベントが多くあるが、しかし、人が集まらない、担い手がいないという話になっている。 市民活動と地域の自治は別物ではあるが、いいイベントや事業があっても人が集まらないのは残念である。市民活動では、人が集まらなければその活動は自然と休止することとなるが、自治協議会にはそれなりの資金力があるので、人が集まらなくても活動が続けられる。しかし、人がついて行かない、人が集まらないというところが非常に残念であり、難しいところでもあると思う。 巷でよく聞くことは、自治協議会のイベントは使われるとか、押し付けの事業をされると聞くことがある。役員の方と地元の方の温度差にギャップがあるように思えて仕方がない。私自身地元の自治協議会のイベントにあまり参加していないので、偉そうなことは言えないが、やはりそれは、事業評価として活動を評価しないと次のステップいけないと思う。そういうプロセスを作っていくことができないのかなと思う。
座長	川西市けやき坂の自治会での井戸端会議に 30 代の子育てママが 3 名来て頂いていた。その 3 名は地域活動に興味があって参加したいとおっしゃった。そこで、副自治会長が、まずは夏祭りの一角をその若い方にお任せするから、そこを貴方達が好きにやって下さいと言って、ブースを提供した。夏祭り後の井戸端会議でその子育てママにその話を伺うと、複数の子育てグループが集まりブースを回したが、その調整をするのが非常に大変であったと申された。今更ながら自治会長の忙しさが分かり勝手なことばかりやっていたのでは駄目だと思い知らされたと言われた。そうやってコーディネートとかまとめ役の方に回って頂くことによって、まとめ役の大変さもご理解頂いて、成長して頂いて、次のステップに行けたかと思う。そのように、上手く若手が育つ仕掛けというの、あってもいいのかなと思った。しかし、最初の入り口のハードルを上げてしまうと参加しないので、やりたいことを好きなように出来る入り口を増やして頂きたい。中央地区では、関大生に好きなようにやってよと言うから、関大生は活き活きとやって下さっている部分も大きいのではないかなと推測している。
職務代理	青垣町という行政的な括りはなくなったものの、青垣としての課題や問題がある。例えば学校の統合問題や水道問題などがあった。各旧町の単位で意思の疎通を図る会、連携を図る会はあるのかということとを各自治協議会の皆様に伺いたい。

副市長	青垣には自治協議会、自治振興会の代表4名と自治会長会の各校区の代表4名、活動推進員で青垣地域自治振興連合会を組織している。 市にも伺いたいことがある。それは単位自治会や自治振興会などの単位を越えた連合組織であっても、要望を受け入れてくれるのだろうか。 市としてどこで垣根を持つという考え方はありません。一番小さな単位自治会でも、校区単位でも、旧町単位でも、要望があればお伺いする。 自治協議会が校区単位であるのは、人口減少社会が始まり高齢化によって担い手が少なくなるなかで地域の自治を維持するには一定の規模が必要であると判断された。しかし、旧町程大きくすると課題が集約しにくいだろうと考え、歴史的な住民のまとまりとして、校区単位が最も適当であるということで自治基本条例のなかで定められた。そういうところの重みがあり、それが基本ではあるが、広がりを受け付けないといったことはしないと思っている。
座長	旧町単位で動くことはないかと自治協議会に質問ですがどうですか。
職務代理	例えば、柏原と新井の間に連絡会といったものは無いのだろうか？
委員	今のところ、新井と柏原の連絡会というものは無い。 昨年、柏原自治協議会と新井自治協議会、自治会長会の3団体と支所が入って頂いて協議したことはある。連絡網がそれぞれバラバラなのでそれを統一した方がよいかどうか。そのような協議が主でした。 定例的なものはないが、雛めぐりを柏原地域全域でやろうと仕掛けている。まだ、始めたばかりなのでどうなるかはわからない。 柏原の場合は、崇広と新井の2校区しかなかったもので、これまでは一緒にイベントをしていた。しかし、自治協議会が出来たおかげで、無理やり分けないといけない状態になっている。柏原の場合は2校区しかなかったのに、それを引き裂いたと感じた経緯があって、残念だったという思いがする。
委員	今、どこの校区も学校の統合という問題があると思う。青垣は、統合して4つの校区が1つになった。しかし、自治協議会が行っている土曜チャレンジなどの事業はいまだ旧校区毎である。青垣全域の子ども達に行きたいところでいろんな学びや経験が出来る機会を提供させてあげたいと提案したが、旧校区毎に交付金が支払われており、他の地域の子どもを参加させてよいのかということとなった。 また、保護者に地域の子どもの同級生の人数を伺った時、すぐに答えが出てこなかった。学校が統合して2年でこの状態である。10年後20年後の丹波市のことを考えて、青垣の小学校統合が良い事例になるように活動しているが、まだまだ課題があると思う。これからは自治協議会の統合も考えていく必要があるかもしれない。 そのあたりについても丹波市にもあり方を考えて頂きたい。

座長	私も個人的には同感で、校区よりも小さな単位でもっと身近な単位でやったらいい事業はそうやってもらったらいいし、校区を越えてやっていくのであれば、負担金も分担してやれば良いと思う。柔軟に一番効果のある方法を考えて頂ければいいのかなと思う。
委員	今から 40 年後の未来には、丹波市は 4 万 5 千人位の人口になると予想されている。すごい勢いで少子高齢化が進んでいる。そのなかで、世帯数は少しずつ増えているという状況にある。なぜ増えているのかというと、やはりアパートであるとか一人暮らしの世帯が増えて来ているためである。 自治会の話ではあるが、70 軒位家があったところに今は 120 軒位の家が建っている。新しく分譲地が出来て家が建ったわけである。新しく家を建てて転居してきた方も増えてとても良いことと思う。 私はそのなかで、自治会の集会に毎月でておりましたら、役員になることとなった。そうすると見えてきたのが、集会に来ない人は役員にならないという不公平感や伝統行事に対する疑問などを感じた。 先日の水害に際して、社会福祉協議会では防災ボランティアセンターの立ち上げも行い思ったのが、自治会でも命を守る取り組みを真っ先にすることが第一の使命なのではないかと個人的には思った。それに付随して、住民の楽しみの事業も、もちろん必要だと思う。私もそうですが、これから役員になる 30 代、40 代の方においては、やりがいや達成感のあることを行いたいと思うのではないだろうか。 そこで、話のあった実行委員会制の取り組みというのはすごく良いとお聞きしていた。役員制であると準備の時間もなく、結局、前年通りの活動や年配の地元の有力な方の集まりで今後が決まってしまうということがあると思う。そのような状態では、変わっていけないと思う。 そのようなところの改善は、どうすべきかと常々感じている。まずは、若い世代と年配の方との話し合いの場を頻繁に持つことが、これからの時代には必要だと思う。
座長	宝塚市の西谷地区のまちづくり協議会の副会長が岸さんという女性の方。その方とお話をするなかで、区長会とまちづくり協議会の違いや整理の仕方を教えて頂きました。区長会は世帯主参加であり、まちづくり協議会は個人参加だと申された。それにはいろいろな意味があるが、決めことをする時には、世帯主という意味決定権を持っている方が集まって議論をすることが必要であり、区長会が担っている。そして、楽しく活動をする部分は、やりたい人がやりたいように出来るように仕掛ける方が良いのでまちづくり協議会が行っていると教えて頂いた。 先程、命を守る活動と楽しい活動の上手な組み合わせが大切であると言われたが、その逆転の発想をされた方がいる。 八尾市の山本小学校区まちづくり協議会の西田会長の取り組みである。それは、防災や福祉といった活動を増やすのをやめて、楽しい行事だけを残したいと言われ調整をされている。 なぜ、楽しい行事だけを残すのかというと、楽しい行事であると、若い

	人も参加して頂け、企画から準備をするに当り全体をコーディネートやマネジメントできる人材が育っていく。また、楽しい行事であれば多くの人に参加して人の繋がりが生まれる。人が育ち、繋がりができれば問題が起こっても対応できる地域になると考え、楽しい行事だけ残すという逆転の発想を行われた。 楽しい行事は、楽しいだけが目的ではなく、別の目的も発生するという発想になって頂くとまた違う展開が可能になってくると思う。
座長	本日のあり方懇話会の内容については、事務局で整理して頂き、その延長上で次回も意見交換をしたいと思っている。 事務局にもお願いしたが、各自治協議会がどのような組織体系になっているか分かりやすく情報提供できるともっと議論にも反映できると思う。事務局には組織図みたいなものを整理して頂ければと思う。
座長	6 その他 次回以降にイベントの周知などでチラシなどがあれば持ってきて頂きたい。それも学びにつながることもあるかと思う。
事務局	7 第3回懇話会開催日程 平成30年9月21日（金）午後2時00分～ 於：ライフピアいちじま 研修室
職務代理	8 閉 会 本日は、皆様が思っていることを情報交換ができたと思う。そのなかで、各自治協議会の課題も少し見えてきたと思う。皆で協力して議論を進めていき、どのようにまとめて行けるか楽しみにしている。